

## 第1章 久慈川流域の概要

### (1) 河川の概要

久慈川は水源を茨城・福島・栃木3県の境界に位置する八溝山(標高1,022m)に発し、山間部を北東に流れて福島県東白川郡棚倉町に至り、これより方向を一転して南流し八溝山脈と阿武隈山脈との間の狭長な平野を流れて茨城県に入り、山間狭窄部を経て常陸大宮市(旧山方町)に至って両岸が開け、次第に流路を南から東に変じ右支川玉川・左支川浅川・山田川・里川を合せJR常磐線鉄道橋の下流の日立市、東海村の境を経て太平洋に注いでいる。

流域面積は1,490km<sup>2</sup>、幹川流路延長は124kmで、全国109水系の一級河川の中ではそれぞれ45番目、35番目に相当する規模を有し、関東地方の最北部に位置する河川である。

久慈川流域の大部分は山地であるが、下流部は肥沃な平野をなし農産物の生産が多く、河口に近い下流部右岸は原子力研究所のある東海村があり、また左岸は日立工業地帯を有する日立市が位置しており、茨城県北部の社会、経済の基盤をなしている。

久慈川の自然環境については、流域内に奥久慈(福島県・茨城県)、太田、高鈴、花園花貫の5つの県立自然公園があり、久慈川流域の上流域が山地であるのに対して、中下流域は肥沃な田園地帯であり、緑豊かな地域が形成されている。都市地域は、河口部の日立市、東海村、常陸太田市等があるが、地目別土地利用面積では久慈川の流域面積1,490km<sup>2</sup>のうち宅地が4.8%、田畑が16.4%で、山林は55.8%と流域の大半を占め、久慈川流域の自然環境は概して豊かである。

直轄管理区間を対象に実施されている河川水辺の国勢調査(平成8年度陸上昆虫類調査、平成9年度植物調査、平成12年度魚類・底生動物調査、平成13年度鳥類・両生類・爬虫類・哺乳類調査)によれば、魚類7種、底生動物7種、植物13種、鳥類16種、哺乳類1種、陸上昆虫類11種と多くの保全上重要な動植物の生息が確認されている(両生類・爬虫類については保全上重要な動物は確認されていない)。

久慈川において発生した水害の歴史を見ると、宝永元年(1704)の記録が最も古いものとされている。江戸時代から現在まで数年から数十年に一度は大洪水により大きな被害が発生している。中でも大正9年の洪水では久慈川および支川で堤防が決壊し沿川は泥海と化し、死者・行方不明90人、家屋流出206戸、全・半壊273戸、床上浸水5,618戸の甚大な被害をもたらした。

久慈川の抜本的な治水対策は度重なる大水害を受けて、国の直轄事業として始まった。大正9年の洪水に基づき、里川合流点から下流の計画高水流量を4,000m<sup>3</sup>/sとし、昭和13年里川合流点付近の改修に着手した。その後、昭和41年に一級河川の指定並びに工事実施基本計画の策定(昭和49年改定)に基づいて河川整備が実施されている。近年では昭和57年9月、61年8月、平成3年9月、11年7月と連続して水害に見舞われ各所で家屋や田畑の浸水など被害が生じている。

久慈川の利水については、古くより行われているが本格的な利水が行われるようになったのは、江戸時代の新田開発からであり、水戸藩によりかんがい計画が立てられた。辰ノ口、岩崎、茅根、田渡、里野宮堰の建設や農業用水路の開削が行われ、沿川地域の農業用水として広域に配水された。現在では、久慈川の水利用(直轄管理区間)は25の水利権に対し約14m<sup>3</sup>/sの水を供給し、農業用水、水道用水、工業用水等として沿川地域の社会経済を支えている。

久慈川のレクリエーション利用は、アユ釣りの名所として、また散策、河川敷でスポーツの場所等として活発に利用されている。中上流の河原等では、水遊び、釣り、散策、バードウォッチング等に利用されている。中下流部の河川敷では公園・グラウンド等も整備され、河口部付近で

は広い水面を利用して水上バイクなどのマリンスポーツが行われている。

また漁業については、アユ、サケ漁等が昔から行なわれており、様々な伝統漁法も残され、現在でも盛んに行なわれている。

表 1-1 久慈川本川と本川に流入する支川名と流路延長

河川名	流路延長	河川名	流路延長
久慈川本川	124.0km	滝川	12.0km
├ 白子川	10.3km	├ 大野川	10.0km
├ 大竹川	8.2km	├ 大沢川	10.9km
├ 大草川	11.0km	├ 湯沢川	5.2km
│ └ 根子屋川	3.0km	├ 久隆川	8.4km
│ └ 檜木川	3.6km	├ 諸沢川	0.5km
├ 近津川	10.0km	├ 枇杷川	8.2km
│ └ 小山田川	4.0km	├ 玉川	20.0km
│ └ 宮川	6.4km	│ └ 照田川	5.6km
│ └ 滑川	5.0km	├ 浅川	23.9km
├ 稲沢川	4.0km	│ └ 赤土川	5.5km
├ 川上川	15.0km	│ └ 千寿川	4.9km
│ └ 那倉川	11.2km	├ 山田川	37.8km
│ └ 渡瀬川	19.4km	│ └ 竜神川	12.5km
│ └ 赤坂川	9.5km	│ └ 染川	7.9km
│ └ 西川	2.8km	│ └ 湯の沢川	3.6km
├ 大内沢川	5.0km	├ 里川	51.4km
├ 中川	2.1km	│ └ 天竜川	6.3km
├ 小田川	10.0km	│ └ 入四間川	7.4km
├ 矢祭川	18.3km	│ └ 源氏川	15.8km
├ 八溝川	20.8km	│ └ 渋江川	8.0km
│ └ 中郷川	7.1km	├ 茂宮川	15.0km
├ 押川	27.4km	│ └ 高貫川	6.0km
│ └ 大道沢川	3.6km	│ └ 亀作川	5.6km
│ └ 相川	9.0km	│ └ 弁天川	6.2km
│ └ 久保田川	5.5km		
│ └ 初原川	15.6km		
└ 浅川	13.2km		



図 1-1 久慈川流域の河川





102km 付近 谷底平野を流れる（棚倉町）



51km 付近 南田気の湾曲部（大子町）  
上流域の下流部はこうした蛇行が特色



31km 付近 大きく蛇行しながら流れる（常陸大宮市）。これより平野部に入り直線的な河道となって流れる。



23km 久慈川の低地と段丘が広がる  
（常陸大宮市～常陸太田市）



12km 付近 山田川合流点上流（常陸太田市）



久慈川河口（日立市・東海村）

図 1-2 上流～下流の久慈川の様子

（～：平成12年10月撮影 ～：平成15年11月撮影）